

泉大津

ハヤブサ・レポート 2006



November 2006

B 日本野鳥の会 大阪支部
Osaka Branch, Wild Bird Society of Japan

泉大津のハヤブサ



(1) 雄 ホテルのロゴマーク（看板）の上
がお気に入りの止まり場
「きらら」と命名 2006. 4. 16 N



(2) 雌 ハヤブサひげ（頬の黒色部）が
太く、頭巾をかぶったように見える
「いずみ」と命名 2006. 5. 14 N



(4) 営巣地周辺環境

ホテル周辺は市街地であり、ドバトやムクドリなどハヤブサの獲物となる鳥が多い。また大津川や海辺の埋立地は水鳥の渡来地であり、ハヤブサにとっても貴重な餌場となっている

(写真提供：泉大津港湾都市(株))



(3) 初代雌「なぎさ」と2羽のヒナ
(2004. 5. 9 付け毎日新聞朝刊 1 面より)



(5) 営巣場所 ホテルサンルート関空
「きららセンタービル」から撮影 N

写真撮影 N：納家 仁、S：阪上幸男、R：リモートカメラ記録画像



(6)岩棚（ベランダ）ディスプレイ、左手前雄、右が雌。
頭を下げて鳴き交わす求愛の行動（本文 17 ページ参照）
2006.2.25 R



(7)雌と卵 3月8日夜から9日早朝にかけて第1卵を
産卵。卵は赤かっ色のまだら模様がある（長径約5cm）
2006.3.10 R



(9)第3卵の確認 雌
3月13日 早朝に第3卵を確認
2006.3.13 午後 R



(10)第4卵の確認 雄
3月15日、午前10時55分
雌から雄への交替時に第4卵を確認、
本格的な抱卵がはじまる
2006.3.15 R

(8)第2卵の確認 3月10日夜
から11日早朝にかけて産卵
写真は雄による抱卵
抱卵期間中は雌、雄交替で
抱卵、夜間は雌が抱卵
2006.3.12 R



(11)3羽のヒナが孵化 4月16日
2006.4.16 R



(12)4羽目のヒナが孵化 4月18日
2006.4.18 R

ヒナたちの成長



(13) 雌による給餌 ヒナ（3日齢）に、親は小さく餌を千切って与える
2006. 4. 18 R



(14) 4羽のヒナ（9日齢）を抱きかかえる雌、目を閉じてお疲れの様子
2006. 4. 24 R



(15) 雄による 19日齢のヒナへの給餌、ヒナたちは行儀よく並んで餌をもらう
2006. 5. 4 R



(16) 夜の巣 ヒナを見守りながら、すりで休む親鳥 2006. 5. 7 R



(17) 翼や尾羽がかなり伸びてきた27日齢のヒナ
2006. 5. 12 R



(18) 雄による 28日齢のヒナへの給餌、たまには餌の取り合いも見られる
2006. 5. 13 R



(19) ヒナが大きくなり、巣を離れることが多くなった雌
2006. 5. 14 N



(20) 巣のあるバルコニーで監視をする雌
2006. 5. 21 N

泉大津のハヤブサ 巣立ちまで



(21) 巣のあるベランダから顔を出した
ヒナたち 2006. 5. 27 N



(22) はばたきの練習に余念がない巣立ち間近のヒナ 2006. 5. 27N



(23) 雌（左）からの給餌を受けるヒナ
大きさは親と変わらない
2006. 5. 28 R



(24) ホテルのベランダから3階の
パーキングエリアに飛び降りた
巣立ちヒナ 2006. 6. 1 S



(25) 幼鳥の飛翔
2006. 6. 11 N



(26) ホテルのロゴマークの上で雌に餌をねだる
ヒナ（右） 2006. 6. 7 S



(27) ホテルのロゴマークの上に勢ぞろいしたヒナたち
2006. 6. 16 S

はじめに

するどい大きな目と、かぎ形にまがったくちばし、黄色く目立つ大きな脚、どの鳥よりも速く飛び、空中で鳥を捕らえる比類なきハンター、ハヤブサ —

そのハヤブサが大阪南部の泉大津市の海岸部に建つ「ホテルサンルート関空」のベランダで2004年の春、初めて営巣し、2羽のヒナが巣立ちました。これは大阪府内での初めての繁殖記録であり、新聞やテレビでも大きく報じられました。

翌2005年も産卵が確認されましたが、抱卵途中で雌に何らかのアクシデントが発生し、繁殖は失敗しました。その後、ハヤブサの頬の部分の黒色斑（通称「ハヤブサひげ」という）が太くて頭巾をかぶったように見える別の雌が現れ、雄との交尾なども観察されました。しかし産卵には至りませんでした。

2006年春、このつがいがホテルのベランダに戻ってきました。2月にはホテルの従業員や地域の住民の皆さん、私ども日本野鳥の会大阪支部の会員などが中心となって「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」が結成されました。そしてホテルの皆さんのご理解とご協力を得て、泉大津旧港再開発事業推進協議会をはじめとする団体や個人からの寄付金をもとに、巣のあるベランダに監視・観察用のリモートカメラが設置され、ハヤブサの子育てを見守る環境が整いました。私ども大阪支部は、大容量記録装置（ハードディスク）を準備し、映像記録を担当いたしました。

幸いにも、繁殖は順調に進み、6月までに4羽のヒナが巣立っていきました。この間の子育ての様子は「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」のホームページを通じて広く公開され、ヒナたちの成長を日々パソコンの画面上で楽しむことができました。

また、産卵から巣立ちに至るまでのおよそ100日に及ぶ膨大な映像記録が得られ、これらを活用して、ここに「ハヤブサ・レポート2006」としてまとめることができました。都市に暮らすハヤブサの生態の一端を皆様に紹介することで、ハヤブサの保護についての理解がさらに広がっていくことを期待するものです。

この間のハヤブサの観察や保護のための取り組みに、ご尽力、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

2006年11月1日

日本野鳥の会 大阪支部
支部長 岡本 恭治

泉大津 ハヤブサ・レポート2006

目 次 CONTENTS

泉大津にやってきたハヤブサ	
ハヤブサとはどんな鳥か	1
ハヤブサの営巣環境について	3
2006年の繁殖記録	
観察日記 リモートカメラが捉えた生態	4
リモートカメラの設置状況	16
繁殖前期（造巣期から産卵前まで）の行動	17
抱卵期の行動について（雌雄役割分担等）	18
巣内育雛期（前期）の行動	20
巣内育雛期（後期）の行動	22
巣立ち前後のヒナや親鳥の行動	23
ヒナの成長と羽衣の変化について	24
ハヤブサは何を食べているのか ペレットと食痕の分析結果から	26
過去の繁殖状況	
2004年、2005年の状況	29
2004年の繁殖状況 泉大津のホテルでハヤブサが繁殖	30
ハヤブサ卵中の微量元素	32
都市に進出するハヤブサ 全国アンケート調査の結果等から	33
大阪府における猛禽類の現状と保護の課題	34
資料編	
泉大津のハヤブサに関する新聞報道等	36

表紙・本文中のイラスト 納家 ひとし 仁



ハヤブサとはどんな鳥か

ハヤブサ (タカ目ハヤブサ科)

学名 *Falco peregrinus japonensis* 漢字名 隼

■ハヤブサとはどんな鳥か

ハヤブサは、海岸、河口、河川、農耕地などに生息し、海岸の断崖の岩棚などで繁殖する。泉大津のハヤブサのように、ビルなどの建物を繁殖に利用する例が増えてきつつある。

雄は全長約42cm、雌は約49cmと雄よりひと回り大きい。翼を広げると1mに達する。

法などによる位置づけ

- ・ 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：国内希少野生動植物種
- ・ 環境省レッドリスト VU：絶滅危惧Ⅱ類
- ・ 大阪府における保護上重要な野生生物
—大阪府レッドデータブック—
絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

●ハヤブサのからだ

【翼】 翼を広げると約1mになる。飛んでいるときには翼は細長く先が尖って見える。上空から獲物をめがけ急降下してくるときの速度は時速300Kmを超えるといわれている。

【目】 目の色は黒褐色で、黄色いアイリングが目立つ。

【くちばし】 他のタカが足だけで獲物を殺し、くちばしは獲物引き裂いて食べることに使うが、ハヤブサは、上くちばしの両側にくびれた「かぎ」をもっており、このかぎと足を使って獲物を殺す。

【足】 体に比べ大きな足を持ち、空中で獲物にパンチを食らわせ仕留めることがある。

【声】 ふだんはほとんど鳴かないが、繁殖期には侵入者に対し「キッキキキ」とか「ケーケーケー」と聞こえる声で鳴く。ヒナは餌をねだるときに「ピーイ、ピーイ」と鳴く。

【成鳥と幼鳥のちがい】

成鳥は、頭の黒味が強く、背は青灰色で、胸から腹は白く、胸の上の方には細かい縦斑が、腹と脇、脛には横斑がある。目から頬にかけてひげ状の黒斑がある。

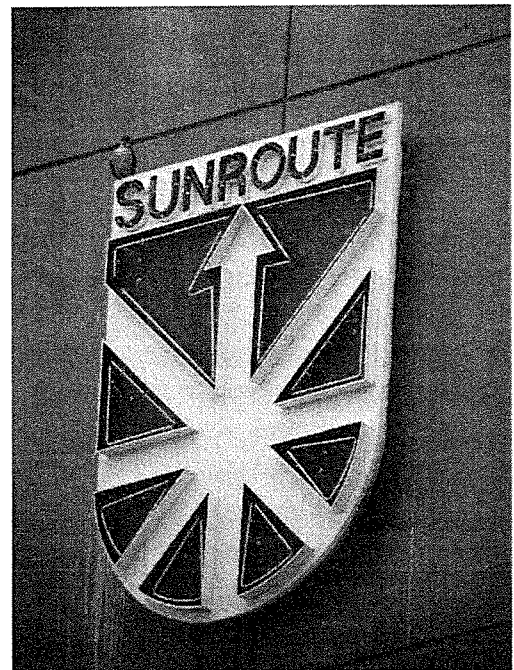
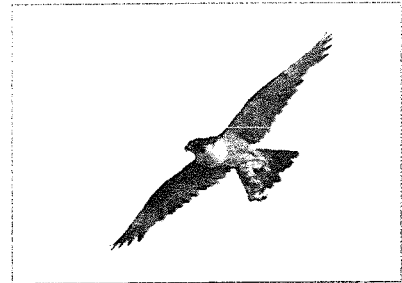
幼鳥は頭から背が茶褐色で、胸から腹にかけては、はっきりした褐色の縦斑が見られる。

●ハヤブサのくらし

【食べ物と狩り】

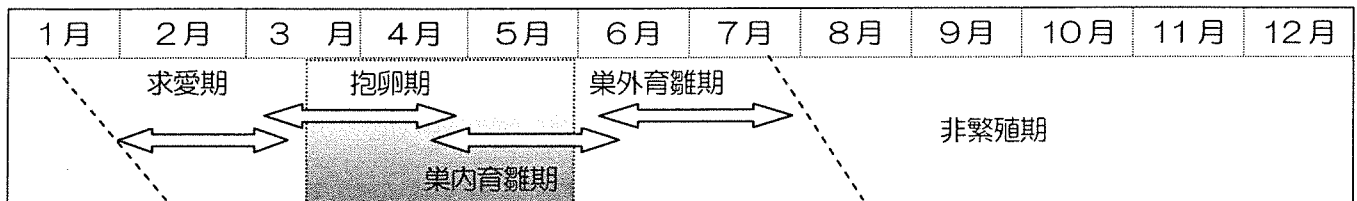
ハトやムクドリ大の小鳥が主な獲物。シギやチドリなどの渡り鳥や冬には小型のカモなどを捕らえることもある。

ハヤブサは、お気に入りの見張り場に止まり、空に鳥が現れるのを待つ。飛んでいる鳥を上空から急降下して猛スピードで追いかけて、大きな足で落としたり、そのまま足でつかみとったりする。捕らえた獲物は、大きな獲物の場合はそのまま地上で食べたりするが、運びやすい小さな獲物の場合は安全な止まり場まで運んでから食べる。



▲ホテルのロゴマーク（看板）がお気に入りの止まり場

●ハヤブサの生活サイクル



【繁殖行動】 () に2006年繁殖データを参考記載

ハヤブサは一度つがいになると、どちらかが死ぬまでつがい関係が続き、繁殖期以外にもいっしょにすることが多い。

・求愛 1月～ ディスプレイ飛翔

雄と雌が追ったり追われたりしながら飛んだりする。巣の近くで求愛給餌（餌渡し）や交尾も見られる。巣は岩棚などをそのまま利用し、自分ではつくらない。

・産卵 3月中旬～3月下旬（3月9日～15日）

ニワトリの卵より一回り小さいぐらいの赤褐色の卵を2～3日おきに、3～4個産む。

・抱卵 3～4月（3月13日～4月16日）

雌、雄とも抱卵を行う。約30日で孵化。雄は、抱卵中の雌に餌を運ぶが、巣から離れた場所や空中で餌渡しがされることが多い。

・子育て

孵化後間もないヒナはヒヨコぐらいの大きさで純白の羽毛に覆われている。ヒナが小さいうちは、雌がヒナを抱き続ける。ヒナへの給餌はほとんど雌が行う。

孵化後12日を過ぎると厚い綿羽が生えはじめ、体温調節が可能となり、雌も狩りに出かけるようになる。孵化後30日を過ぎるとヒナは親鳥とほぼ同じ大きさになり、褐色の羽毛に覆われる。

・巣立ち 5月下旬～6月中旬（5月25～末日）

孵化後35から40日ぐらいで巣立ちする。泉大津の場合、最初のヒナが巣立った（ベランダから飛び立った）のは孵化から40日目であった。泉大津の場合は営巣場所がホテルのベランダであり、孵化後35日ぐらいには巣の場所を離れ、ベランダを動きまわっていたことから巣をはなれた日を巣立ちとすれば、一般に言われている巣立ちまでの日数と同様といえる。巣立った幼鳥は、1月ぐらいの間、巣の近くで親鳥から餌をもらう。幼鳥がじゅうぶんに飛べるようになると、空中で餌を渡すようになる。巣立ち後、2ヶ月もすると自力で狩りができるようになり、親から離れていく。

■ ハヤブサについての8つの質問

Q1 世界のどこに分布しているのか？

南極を除く世界のほぼ全域に分布。日本では、九州以北で繁殖。冬鳥として渡ってくるものもいる。

Q2 日本ではどれぐらい生息しているのか？

詳しい調査はなされていないが、およそ300羽といわれている。岩手県では約60の営巣地があり、約130羽生息しているとされている（岩手県2001）。

Q3 ハヤブサの寿命は？

約10年といわれている。

Q4 雄と雌の大きさの違いはどうして？

雌は雄より3割ほど体が大きい。これは、体の小さな雄がよりスズメやムクドリなどの小さな獲物を、体の大きな雌がハトなどの中型の鳥を獲物とすることで、テリトリー内の餌資源を有効活用できる利点がある。また体の大きな雌が子育て期間中も巣の近くにおいて、カラスなど敵の接近からヒナを守ることに有効。

Q5 ハヤブサの狩りの成功率は？

ハヤブサはほとんどが空中で飛んでいる鳥を捕らえる。広島県で調べられた海上での捕獲成功率は54%、陸上では18%という報告がある（山田2001）。いかに狩りの名手でも100発100中とはいかない。

Q6 ハヤブサの飛ぶスピードは時速何キロ？

ハヤブサは翼をたたみミサイルのようなスピードで狙った獲物に急降下する。瞬間的には時速300～400キロになるともいわれている。

Q7 農薬の影響で数が減ったというのは本当？

DDTなどの有機塩素系の農薬の影響で、卵の殻が薄くなったり、卵の中で成長できないヒナがでてきたり、食物連鎖の頂点に立つハヤブサは、獲物として口にした鳥などの体内に含まれる毒物をどんどん貯めこんで最も大きな影響を受けた鳥のひとつである。

Q8 アメリカなどでハヤブサが増えた理由は？

農薬の使用制限によって毒物による影響が低減。人工授精したハヤブサの放鳥やビルなどへの巣台の設置や子育ての監視など多くの人たちの献身的な保護活動が実り、絶滅の危機から脱出。都市のくらしにも適応するようになり絶滅など考えつかないほど増加した。

ハヤブサの営巣環境について 営巣場所の状況と周辺環境

なやひとし きかうえ ゆきお
納家 仁 阪上 幸男

ハヤブサは本来、海岸部の断崖にある岩棚などで、繁殖することが多いが、近年都市部のビルなどの人工建造物を繁殖に利用する事例が増えてきつつある。しかし、人工建造物での繁殖が成功し巣立ちにまでいたるケースは少なく、2004年の泉大津での繁殖記録が全国的にみても数例目の成功事例と考えられる。

どうしてハヤブサがこの場所を営巣地として選択したかを考えるために、泉大津のホテルの営巣場所と周辺の環境について整理してみた。

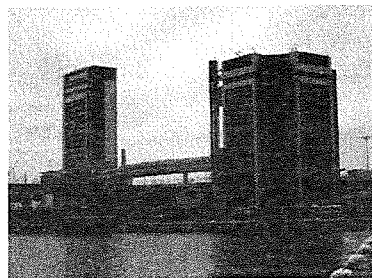
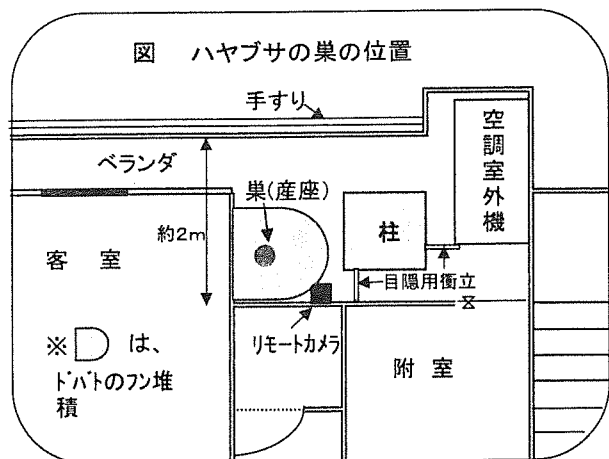
■営巣している建物と巣の位置

建物名称、立地場所等	ホテルサンルート関西 高速道路臨海線、泉大津サービスエリアに隣接、海岸までの距離約200m
建築概要	地上20階建て 高さ77.35m 1996年竣工
巣の場所	客室18階のベランダ 地上からの高さ63.65m
巣の状況	ベランダの奥まった場所にドバトのフンが堆積してできた四方約1.2mのマウンド（ドバトがねぐらや営巣にベランダを複数年利用していたものと思われる）を巣として利用 ※図参照
巣のあるベランダの方位等	南西向き 午後から日差しが巣のあるベランダの奥まで届く 上階の建物部分が庇となって、通常の降雨であれば巣までは雨に濡れることはない

■営巣地の周辺環境

営巣地の立地環境	きららタウン泉大津：大阪都心から南西約20km、関西国際空港から北東約15km。泉大津旧港を埋立開発し、1996年にまちびらきしたもの。総面積26haで営巣地のホテルの他にビジネス施設や緑地、マリナー、商業施設、住宅ゾーンなどがある。
近接する建物	「きららセンタービル」 ホテルの北西約100mに建つ地上12階建て、高さ52.2mのビル ・ホテル同様、ハヤブサの止まりがよく見られる。 ・巣立ち後のヒナ鳥に安心できる休み場を提供 ・3階部分が高速道路臨海線の泉大津サービスエリアとなっており、11階の展望室からは、大阪湾の景色やホテルのシンボルマークに止まるハヤブサを見ることができる
周辺環境・野鳥渡来地等（□絵写真④参照）	①大津川 河口部の川幅約150m 河口部の干潟には、水鳥が多く集まる ②泉大津フェニックス 汐見埠頭地先の産業廃棄物埋立処分場 コアジサシやツバメチドリ等の繁殖地、冬には、スズガモを中心に1000羽程度のカモが越冬 ③泉北6区先端緑地（助松野鳥園予定地） 小規模ながら干潟が造成され、シギ・チドリなどの水鳥が渡来

● 営巣場所 平面図



▲左奥がサンルート関西、右が「きららセンタービル」

なぜ当地をハヤブサが営巣地を選んだのだろうか？

- 高層ビルを海岸部の断崖と見立て、またそこに巣をつくるのに適当なベランダがあったこと
- 周辺に餌場（野鳥の生息地）があったこと

■ハヤブサ観察日記


ハヤブサの子育ての様子を観察・監視するため、2月17日に巣の近くにリモートカメラ（ネットワークカメラ）を設置した。※システムの詳細はP16参照

2月25日以降、ヒナが巣立った5月31日までにカメラを通じて得られた膨大な画像の中から、1日に1枚、生態をとらえたものや、行動やしぐさの面白いものなどを任意に選択して日付順に並べた。またその画像についての簡単な説明や、その日のエピソードなどを記載した。

なおカメラについては、レンズ部をパン・チルトできるものであったが、産卵後から4月29日まではレンズ固定で撮影し、それ以降はヒナの移動にあわせてレンズ部をパン・チルトして記録した。

<例示>

3. 14 晴後一時みぞれ 7.8/1.2



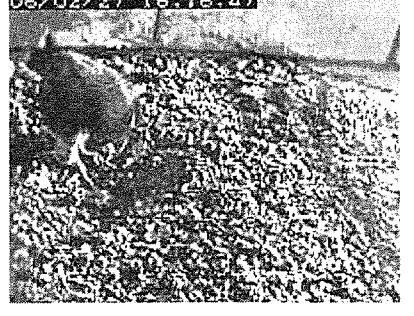


12:50 奥み、手前♀
みから♀への抱卵交替。
[抱卵2日目]

※日付、天候、最高気温/最低気温(近傍の関空島の気象庁観測データを記載)

簡単な解説を記載

注) 文章中、みは雄、♀は雌を表す。

2. 25 晴後時々曇 13.1/3.7	2. 26 雨後曇 15.8/8.9	2. 27 曇 10.8/3.3
		
18:20 手前がみ、奥が♀、向かい合っておじぎをする「あいさつディスプレイ」と呼ばれる行動。	11:40 ♂ 巣のあるベランダの手摺り止まる。	16:16 ♂ 産座のくぼみの近くで、さかんに鳴いて♀にアピールする。

2. 28 曇一時晴 8.6/2.1

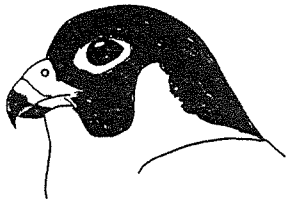


15:49 ♂
「そのう」が大きくふくらんでいるのが分かる。


■ 雄（み）と雌（♀）の見分け方

ハヤブサは他の多くのタカ目の鳥同様、雌が雄よりも一回り大きい。2羽が並べば、その大きさの違いははっきりと分かるが、1羽だけの時は、一般には判別が難しい。


しかし、今回子育てをした雌は「ハヤブサひげ」と言われる頬のパッチが非常に太く、黒い頭巾をかぶったように見えることから、雌雄の判別は簡単であった。


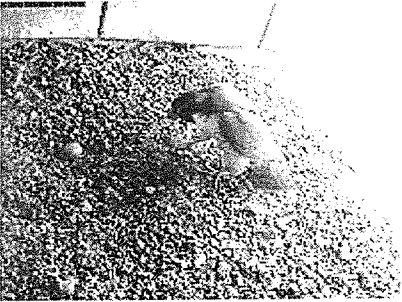


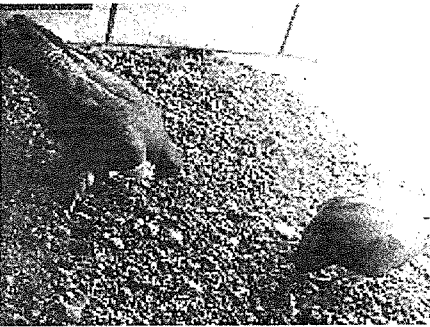


▲雄 ひげがはっきり



▲雌 頭全体が黒い

<p>3. 1雨 7.3/4.1</p>	<p>3. 2晴 8.8/3.9</p>	<p>3. 3晴 8.3/3.1</p>
		
<p>12:44 ♂ 産卵前には、♂が頻繁に巣となる場所に訪れる。</p>	<p>15:48 産座づくりをする♂ 足で地面(ここではドバトのフン)を掻いたり、腹を押し付けたりする。</p>	<p>9:32 産座の場所に来た♀ ♂に比べ大きくて、黒頭巾の顔がいかつく見える。</p>
<p>3. 4晴 8.5/2.0</p>	<p>3. 5快晴 14.2/3.3</p>	<p>3. 6雨時々曇 12.0/8.8</p>
		
<p>13:42 産座のところに投げ込まれた食べかけのドバト。ここでは食べずに、持ち出される。</p>	<p>13:32 左♂、右♀ あいさつディスプレイ ♂は頬のハヤブサひげがはっきりしている。</p>	<p>15:48 左♂、右♀ ♂から♀への求愛給餌</p>
<p>3. 7快晴 12.1/6.2</p>	<p>3. 8晴後一時曇 14.6/6.6</p>	
		
<p>16:57 ♀ 来巢 晴れた日には、午後からはベランダに日差しが入る。</p>	<p>11:45 ♀ 11:15に来巢した♀が、12:09まで約1時間滞在。産卵間近か。</p>	<p>18:19 ♀ この日、夕刻からついに♀が巣ごもりに入る。 今夜産卵か!?</p>

3. 9曇 12.6/6.2	3. 10雨 12.3/8.2	3. 11晴時々曇 14.1/6.4
		
<p>15:50 ♀ この日、早朝に第1卵を確認。 日中も卵をあまり抱かず、また夜も卵を抱かないままであった。</p>	<p>6:20 ♂ 抱卵にやって来た。</p>	<p>7:12 ♀ この日、早朝に第2卵を確認。 まだ抱卵しない時間が多い。</p>

3. 12雨後時々曇 14.0/4.7	3. 13晴後雪時々曇 6.4/1.9	3. 14晴後一時みぞれ 7.8/1.2
		
<p>9:30 左♀、右♂ ♀から♂への抱卵交替前のあいさつディスプレイ。</p>	<p>10:19 ♂ この日、早朝に第3卵を確認。 ここまではすべて、中1日あけての産卵である。本格的な抱卵が始まる。 [抱卵1日目]と定義</p>	<p>12:50 奥♂、手前♀ ♂から♀への抱卵交替。 [抱卵2日目]</p>

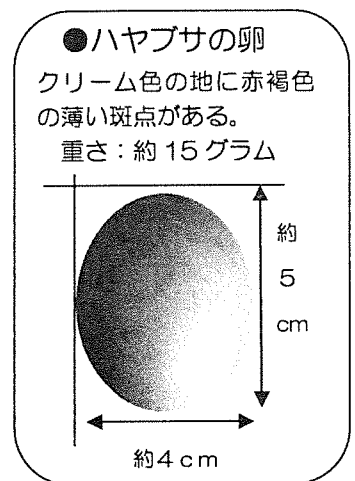
3. 15快晴 14.0/5.9

<p>15:46 ♀ この日、午前中に第4卵を確認。 本格的な抱卵が始まる。 [抱卵3日目]</p>

■ 抱卵時期の調整について

ハヤブサは通常、3～4卵を産むことが多く、本格的な抱卵は第3卵が産まれてから開始される。泉大津のハヤブサの例でも、1卵目の時は産卵日の夜も抱卵せずに放置されたままであった。2日目の夜には抱卵が確認されたが、第3卵が産まれるまでの4日間は、抱卵されずに放置されたままの時間が多かった。

先に産まれた卵を抱かないことで、卵の成長が遅れ、すべての卵がほぼ同時期に孵化することとなる。





観察日記




リモートカメラがとらえた生態

[3月16日~24日]

④

3. 16 雨一時曇 14.0/5.9	3. 17 曇時々雨後晴 12.9/7.3	3. 18 曇後雨 8.2/5.3
		
<p>9:13 左み、右♀ みから♀への抱卵交替。 日中はみと♀はほぼ同時抱卵。 [抱卵4日目]</p>	<p>16:25 ♂ ♀の姿が見えて、巣から出て行こうとするみ。 [抱卵5日目]</p>	<p>17:01 手前♀ みから♀への抱卵交替。 日没前から夜明けまでは♀が抱卵。 [抱卵6日目]</p>
3. 19 曇時々雨 9.3/4.2	3. 20 快晴 10.5/3.3	3. 21 薄曇 12.6/5.6
		
<p>16:59 ♀ 午後は巣のあるベランダの奥まで日が差し込む。 [抱卵7日目]</p>	<p>6:39 ♂ 抱卵姿勢から、尾を立て、翼を広げる。 [抱卵8日目]</p>	<p>8:34 ♂ 抱卵交替のために巣に戻ったみ。 [抱卵9日目]</p>
3. 22 曇後雨 10.2/6.9	3. 23 曇一時霧雨 12.3/7.6	3. 24 晴 11.7/6.1
		
<p>10:30 左♀、右み ♀からみへの抱卵交替前のあいさつディスプレイ。 [抱卵10日目]</p>	<p>12:10 ♀ 土(ドバトのフン)を口に入れる。時々こういった土を食べる行動が見られる。 [抱卵11日目]</p>	<p>6:17 左♀、右み 抱卵中の♀にみがあいさつディスプレイ。 [抱卵12日目]</p>

3. 25 快晴 12.2/3.6	3. 26 薄曇 15.4/7.7	3. 27 晴時々薄曇 15.5/7.9
		
17:57 ♂ 抱卵を止め、立ち上がる。 [抱卵 13 日目]	8:42 ♀ 餌を口にくわえて帰巢。 [抱卵 14 日目]	9:43 左♀、右♂ あいさつディスプレイの後で、バランスを崩して翼を広げる♀。 [抱卵 15 日目]

3. 28 晴後雨時々曇 16.1/7.0	3. 29 晴後曇 9.8/5.0	3. 30 雨時々曇後晴 11.3/3.3
		
12:02 手前♀、奥♂ ♀が来巢、あいさつなく、すごすごと巣から出て行く♂。 [抱卵 16 日目]	12:44 左♀、右♂ ♀が抱卵中、♂が来巢した時は、あいさつを欠かさない。 [抱卵 17 日目]	8:49 左♀、右♂ ♀が来巢、あいさつなく、ベランダへと出て行く♂。 [抱卵 18 日目]

3. 31 晴 10.6/3.4

14:46 左♀、右♂ ♀抱卵、♂交替のために来巢 [抱卵 19 日目]

■ ハヤブサ 子育てライブ映像の公開

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部が設置したネットワークカメラによるライブ映像を同倶楽部ホームページを通じて3月11日から公開した。

欧米では、ハヤブサに限らず様々な野鳥の営巣ライブをインターネットを介して公開されているが、日本での取組みは数例しかない。

ハヤブサ営巣のライブ映像の公開は、民間団体によるものとしては、日本で初めての取組みである。

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部 ホームページアドレス
<http://www.ne.jp/asahi/hayabusa/izumiotsu/>

4. 1曇 12.4/4.5	4. 2雨 17.2/9.5	4. 3晴 17.1/10.1
		
<p>12:09 ♂ 右目の上に眉のような白い羽毛が見える。どこかで、ひっかけて羽毛が部分的に抜けてしまったもの。 [抱卵 20 日目]</p>	<p>18:01 左み、右♀ 夕方のみから♀への抱卵交替。 [抱卵 21 日目]</p>	<p>17:50 ♀ 抱卵中、首をかしげるポーズ。 [抱卵 22 日目]</p>
4. 4晴後曇一時雨 16.8/8.0	4. 5雨後時々曇 13.2/10.7	4. 6晴後曇 13.1/7.2
		
<p>17:50 ♀ この日は、朝からみ方が3時間以上抱いたので午後から♀が担当。 [抱卵 23 日目]</p>	<p>13:45 ♂ みは背の部分が♀より明るく見える。 [抱卵 24 日目]</p>	<p>14:54 みから♀への抱卵交替。 [抱卵 25 日目]</p>
4. 7晴一時曇 15.3/7.5	4. 8晴 18.3/11.1	4. 9晴後薄曇 15.2/9.1
		
<p>12:39 ♀ 土を食べている。 [抱卵 26 日目]</p>	<p>11:20 ♀ 抱卵しながら眠っているように見える。 [抱卵 27 日目]</p>	<p>10:02 ♀ 転卵行動。 [抱卵 28 日目]</p>

4. 10 16.9/10.3	4. 11 16.2/11.9	4. 12 18.2/12.3
		
<p>6:20 ♀ 右目に白い羽毛が張り付いて、しばらく取れない状態。 [抱卵 29 日目]</p>	<p>7:12 ♀ 土を食べる。 [抱卵 30 日目]</p>	<p>9:58 ♀ 抱卵を止めて立ち上がる。 [抱卵 31 日目]</p>
4. 13 15.5/12.2	4. 14 12.1/10.1	4. 15 11.4/8.9
		
<p>10:10 左♀、奥♂ ベランダの上で♂が見守り。 [抱卵 32 日目]</p>	<p>8:58 ♀ 抱卵しながら目をとじる。 [抱卵 33 日目]</p>	<p>17:07 左♂、右♀ ♀が卵を相手に餌を与えるような仕草を見せた。 [抱卵 34 日目]</p>
4. 16 15.6/8.9		
		
<p>5:31 この日早朝に、ヒナ2羽を確認。 [ヒナ: 1 日齢]</p>	<p>6:28 ヒナを抱きながら割れた卵の中をつつく♀</p>	<p>18:19 餌をねだるヒナ。ピーピーと鳴きながら、親に向かって大きく口を突き出す。</p>